

**オムロン株式会社 2012 年度決算
投資家様向け説明会 質疑応答
(2013 年 4 月 26 日、東京)**

◆ 全社経営・戦略関連

Q: 過去2年間の IAB の構造改革の進捗に関して説明してほしい。

A: 新商品の開発はほぼ狙いどおりに実行している。事業環境の悪化により設備投資需要はブレーキがかかっているが、市場が好転してくればいい方向に向かうと思っている。施策は間違っていないと確信している。

Q: 製品・サービスの付加価値を上げていくにあたって、今後、好転していくと考える事例はあるか？

A: IAB 事業では新興国中心にコストが厳しいローエンドの戦いがあるが、FA は高度化している。オムロンはオートメーションセンターを開設し、PLC、センサ、コンポーネントを通じて単品販売からソリューション、提案を交えたお客様への付加価値を上げる方向に変えてきている。

Q: 売上総利益率向上、高付加価値は具体的にどのように提供していくのか。

A: 環境関連、将来的には FA × 環境関連の成長が GP 率向上の柱になると考えている。

Q: 為替は競合上でどう見るか？価格を下げるなどの戦略をとるか？仮に 95 円、100 円の場合戦略変更はあるのか？

A: 戦略変更はない。対競合での戦略的な価格の変動はあるが、為替レートだけを見て値引きをすることはしない。

Q: 利益率の改善・強化で R&D 費は売上比率 7%程度になっているが、今後の考えは？

A: R&D 費は成長の源泉なので意志を持って使う。利益を出すためには GP 率に集中して改善する。

Q: オムロンの環境事業と健康事業の海外での売上成長について聞きたい。

A: 環境関連は VG のグローブステージで 400 億円を目標としており、次の成長の柱にする。ヘルスケア事業は新興国で 25%程度の成長を見込み、商品群の強化・営業力の強化でロシア、インドなどを狙う。

◆ IAB 関連

Q: IAB の中国、国内の代理店・ユーザーの動きなどの背景を細かく聞きたい。

A: 国内の実需では、自動車、電子部品が底打ちしている感じ。世の中の動きは改善しているが、实体经济はもう少し時間がかかると思う。中国は全体を見ると設備投資は厳しいが、自動化の流れは底堅いものがある。営業拠点を拡大してきたことやコスト競争力のある商品のリリースで伸ばしていく。

Q: 新興国で FA の高度化などの需要があると思うが、市場の需要動向は変わってきているのか？戦略の変更はあるのか？

A: 戦略の変更はない。新商品・チャネルの強化は実行していく。同時に、新興国でも最先端の工場を作っていくニーズはある。世界最速の PLC などのニーズも出てきている。

◆ SSB 関連

Q: SSB は今年度も堅調は持続するか。また、環境関連事業の売上、利益への貢献はどう見ているか？

A: SSB は既存事業(駅務関連)が FY13、FY14 と大きな設備の更新時期になっている。震災のあとの好転もあり、1 社購買への切り替えなどの注文も受けている。また、安心・安全に関してのニーズもでてきている。環境関連事業は、売電事業の関係もあり太陽光パネルのメンテナンスが必要になってきており、今後も売上は拡大する。
